平成29年（2017年） 5月

訪問リハビリテーション通信
“絆”きずな

第40号
出版責任者
訪問リハビリテーション振興委員会

訪問リハビリテーション・フォーラム2017開催

平成29年5月21日(日)、東京ビッグサイト(東京都)にて日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会が主催し、「訪問リハビリテーションフォーラム2017」が開催され420名を超える方にご参加いただきました。

地域包括ケアシステムの構築でますます重要視される「医療と介護の連携」と「介護予防・日常生活総合事業」に焦点を当て、地域住民に対するシームレスな在宅リハビリテーションについて討論が交わされました。

特別講演では厚生労働省老健局老人保健課課長　鈴木健彦氏より「医療・介護報酬改定と今後の地域包括ケアシステムの動向」、基調講演では産業医科大学医学部公衆衛生学教室　教授　松田晋哉氏より「地域包括ケアシステムを深化させる医療・介護連携」をご講演いただきました。

シンポジウムでは「シームレスな在宅リハビリテーションに必要な医療、介護、自治体との連携」について医療法人秀友会在宅リハビリテーション科　言語聴覚士　大澤真理氏、医療法人社団長久会　介護老人保健施設加賀のぞみ園　リハビリ課・訪問看護ステーション加賀　作業療法士　中森清孝氏、宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる　理学療法士　石田英恵氏より事例を交えお話をいただきました。訪問リハビリテーションは、地域資源にもアプローチしていくことのできるサービス体であることが再確認されました。

一般財団法人　訪問リハビリテーション振興財団　組織化班

訪問リハ・地域リーダーの“絆”　ご当地紹介㉙　和歌山県編

和歌山県では昨年度、訪問看護に常勤で所属しているセラピストから成る「訪看リハを考える会」という有志の会を立ち上げました。訪問リハと訪問看護のリハビリテーションにおいて、実施内容は同じという報告もありますが、制度においては異なる点も多いです。また、訪問看護で看護師が人員配置基準より多く在籍し、看護サービスの機能が十分に成り立っている事業所の対象者は、医療依存度の高い疾患や重度者が多い傾向にあると感じています。

訪問看護の適正なリハビリテーションサービスの運用を目的に、「訪看リハを考える会」では、昨年度「訪問看護制度下でのリハビリテーションの在り方」について、紀北・紀南にわけて研修会を2回開催しました。最近では、和歌山県訪問看護連絡協議会の専門職として、行政会議に出席させていただく機会も得られています。

和歌山県訪問リハ・地域リーダー　作業療法士
紀州リハビリケア訪問看護ステーション　寺本　千秋

南から始まる訪問リハビリテーションの魅力　in 鳥取県

私は、これまで自衛隊や生化学系の研究助手、イベント会社のスタッフなどを経験して参りました。それぞれの仕事において色々な魅力がありましたが、その中でも訪問リハビリテーションは“感動”する点が最大の魅力だと思います。

例えば脳梗塞後、なんとか自信を取り戻し文化祭のステージに車椅子で立ち、熱唱される後姿。あるいは、がん末期、多職種で実現した自宅での入浴にて、気持ちよさそうなご本人と手を握る家族の笑顔。さらに死の床にあって、手塩にかけて育てた我山を訪問リハビリテーションで歩き見て回った際の写真を、満足そうに見つめる眼差し。訪問リハビリテーションで出会った方々の人生や生き様が、心の琴線に触れます。

そして、ご本人が他界されたあと、その活動を嬉しそうにご家族がお話しされる。そんな時、大いに感動して、また訪問リハビリテーションに出かけたいと思うのです。

鳥取県訪問リハ・地域リーダー　理学療法士
日南町国民健康保険　日南病院　田辺　大起